



# 学校だより

令和7年1月31日 NO.10

小松川第二小学校  
校長 五十嵐 一嘉

## 児童の意識調査から分かる教育活動の進め方

副校長

江戸川区は令和3年度に区立小中学校へ学習用端末の整備を行い、児童が授業や家庭学習に使用できるようになっています。学校では授業における活用や児童への一斉連絡など、オンラインの特性を最大限に生かしているところです。学習用端末の使用においては、同時、個別、一斉など、瞬時に情報の管理ができることや、記録性、再現性の大きな利点があり大変便利です。

令和6年度の東京都統一体カテストの記録や学校情報の提出は学習用端末を活用することとなりました。学習用端末を使う利点としては、測定値の把握や連携、測定結果入力にかかる時間の大幅な削減がありました。現在は東京都教育委員会による結果の公表を待っているところです。

保護者の皆様におかれましては、昨年担任がお知らせした方法で学習用端末を使い児童が取り組んだ体カテストの結果を確認したことと思います。本紙では児童が回答した生活習慣に関する意識調査の一部を紹介します。

問1 運動（体を動かすあそびを含みます）やスポーツをすることは好きですか。（回答% 小数点以下を四捨五入）

回答	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
好き	86	84	73	68	63	56
やや好き	11	11	23	23	27	31
ややきらい・きらい	3	5	4	9	10	13

問2 体育の授業は楽しいと思いますか。

回答	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
思う	89	89	83	76	65	51
やや思う	10	7	14	17	30	36
あまり思わない・思わない	1	4	3	7	5	13

問2を5年生、6年生の学齢別に次の質問と組み合わせクロス集計し、傾向を確認しました。

「中学校に進んだら、授業以外でも自主的に体を動かす遊びやスポーツをする時間をもちたいと思いますか。」

結果は体育の授業が楽しいと思うと回答した児童のうち、5年生76%の児童、6年生82%の児童が肯定的な回答でした。このことから、体育の授業が楽しいと思っている児童は小学校卒業後の運動意欲について肯定的な考えをもっていることが分かります。様々なデータを基に考察することで、児童の運動に対する考え方、運動の価値を理解することができます。今後も学校教育では、児童の生活に運動が位置付くよう、体育科の授業改善を大切にすることを感じます。